

# 年頭の挨拶

行政

相馬市長



立谷秀清

市民の皆さま、明けましておめでとうございます。平成31年の門出を迎え、皆さま方のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、日ごろより市政伸展のためにお寄せいただいておりますご協力に、心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、市民の皆さまのご努力により本市の復興が着実に進み、震災前の姿や賑わいが戻ってきていることを実感できる1年でした。

震災前、全国有数の規模を誇っていた松川浦の青ノリ震災後出荷を自粛していましたが、漁業関係者の地道な努力により、昨年二月、出荷を再開しました。震災前の規模には程遠いものの、松川浦の原風景ともいえるノリ棚の光景が戻ってまいりました。

七月には、相馬の夏の風物詩であり、観光資源の一つでもある「原釜尾浜海水浴場」が再開し、海岸に多くの笑顔

とにぎやかな歓声が溢れました。

また、本市の復旧と今後のまちづくりを支える重要なインフラである、相馬福島道路と重要港湾相馬港も整備と復旧が進みました。

相馬福島道路のうち相馬玉野インターチェンジから霊山インターチェンジ間が新たに開通し、総延長約45キロメートルの6割となる28キロメートルの区間が通行できるようになりました。さらに、相馬インターチェンジから相馬山上インターチェンジ間6キロメートルの整備も順調に進められ、その姿が見えてきました。

相馬港では、港の防波機能を担う総延長2、730メートルの沖防波堤の復旧工事が完了しました。周辺道路の整備も急ピッチで進められ、本市の海の玄関口の機能強化が進んでいます。

さて、今年は震災発生から

8年目を迎えます。今後の地域振興、地方創生を見据え、「スポーツアリーナそうま第二体育館」や「尾浜地区復興交流広場」、「復興市民市場」の整備などの復興事業を進めながら、引き続き、風評被害の払しょく、放射能対策、子育て・教育環境の充実に取り組みます。加えて、これまで整備したインフラや施設を相馬のまちづくりに有効に活用し、市民生活の向上と活力ある地域づくりにつなげてまいります。

市民が相馬市民であることに誇りを持ち、子ども・青壮年・高齢者が、安全・安心して心豊かな生活を送ることができるよう相馬市を創造するため、市民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

新しい一年が皆さまにとりまして輝かしい年となりますよう心から祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。



米山光喜



平成31年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

市民の皆さまには、日ごろより、市議会に対し、深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、平成23年3月に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から、もうすぐ8年を迎えようとしております。

震災発生以来これまで、国内外の多くの方々からご支援をいただき、市民と行政が一体となり、復興に向けた取り組みを進めてまいりました。

昨年は、市道大洲松川線の再開通や、8年ぶりの原釜尾浜海水浴場の海開きなど、市沿岸部における観光復興が進み、復興の歩みを感じる事ができました。今年もさまざまな観光資源との相乗効果により、多くの誘客があるものと考えております。

また、復興支援道路として国が整備を進めております相

馬福島道路も、昨年3月に相

馬玉野インターチェンジから

霊山インターチェンジまでの

区間が開通し、移動時間の短

縮と悪天候時の走行性が大幅

に向上いたしました。今後、

相馬インターチェンジから相

馬山上インターチェンジまで

の6キロメートルの開通が予

定されておりますが、東北中

央自動車道、相馬福島道路が

全線開通した際には、広域的

な観光交流の促進、物流の効

率化、救急医療サービスの向

上といった効果が期待される

重要となっております。

市議会におきましても、相

馬市議会基本条例に基づき、

議会活動を積極的に行うとと

もに、議会報告会や市議会の

見える化、議会運営の効率化

の検討を図るなど、自ら改革

に取り組む努力も重ねており

ます。

今年市議会議員任期の最

終年となります。引き続き、

震災からの復興に向けた取

り組みを進めるとともに、安

心・安全の住みよいまちづく

りや地域の福祉向上のため、

市民の代表者である自覚と責

任をもって、皆さまの多様な

声を的確に把握することに努

め、諸課題の解決に向け、一

丸となって全力で取り組んで

まいります。

本年が市民の皆さまにとつ

て、健康で幸多き素晴らしい

年となりますよう心からお祈

り申し上げます、新年のご

挨拶いたします。